

足 監 査 第 6 9 号

平成22年10月25日

足利市名草財産区管理者

足利市長 大豆生田 実 様

足利市監査委員 岩 崎 勝

足利市監査委員 岡 本 篤 典

足利市監査委員 常 見 登

平成21年度足利市名草財産区特別会計歳入歳出決算
審査意見について

地方自治法第233条第2項の規定により審査に付された平成21年度足利市名草財産区特別会計歳入歳出決算を審査したので、その結果について、次のとおり意見を提出します。

平成21年度 足利市名草財産区特別会計歳入歳出決算審査意見

第1 審査の対象

平成21年度 足利市名草財産区特別会計歳入歳出決算

第2 審査の期間

平成22年9月16日から平成22年10月25日

第3 審査の方法

審査に当たっては、管理者から審査に付された平成21年度足利市名草財産区特別会計歳入歳出決算書及び附属書類と会計管理者及び担当部課が所管する諸帳簿等を照合し、計数の確認を行ったほか、事務事業及び予算の執行状況等について関係職員からの説明を聴取して行いました。

第4 審査の結果

審査に付された歳入歳出決算書及び附属書類は、いずれも関係法令にのっとり作成され、また、計数も関係諸帳簿、証ひょう書類と符合していましたが、財政運営上の課題が認められました。

なお、歳入歳出差引残高は、出納閉鎖日現在における指定金融機関等の預金現在高証明書と一致し、正確であることを確認しました。

審査の概要は、次のとおりです。

- (注) ・本文中及び表中の金額は、原則として千円単位とし、千円未満は四捨五入しました。また、合計額及び内訳の数値が、個別の四捨五入と一致しない場合があります。
- ・構成比率(%)は、合計と内訳の計が一致しない場合があります。
 - ・ポイントとは、パーセンテージを比較した場合の単純差引数値です。

1 財政運営の状況

本年度の財政運営をみると、前年度に比べて歳入は 48.1%減少し、歳出も 63.8%減少しています。

財政収支の状況をみると、本年度の実質収支 1,455 千円から前年度の実質収支 2,026 千円を差し引いた単年度収支は 571 千円の赤字となり、基金の積立てを加えた実質単年度収支も 71 千円の赤字となっています。

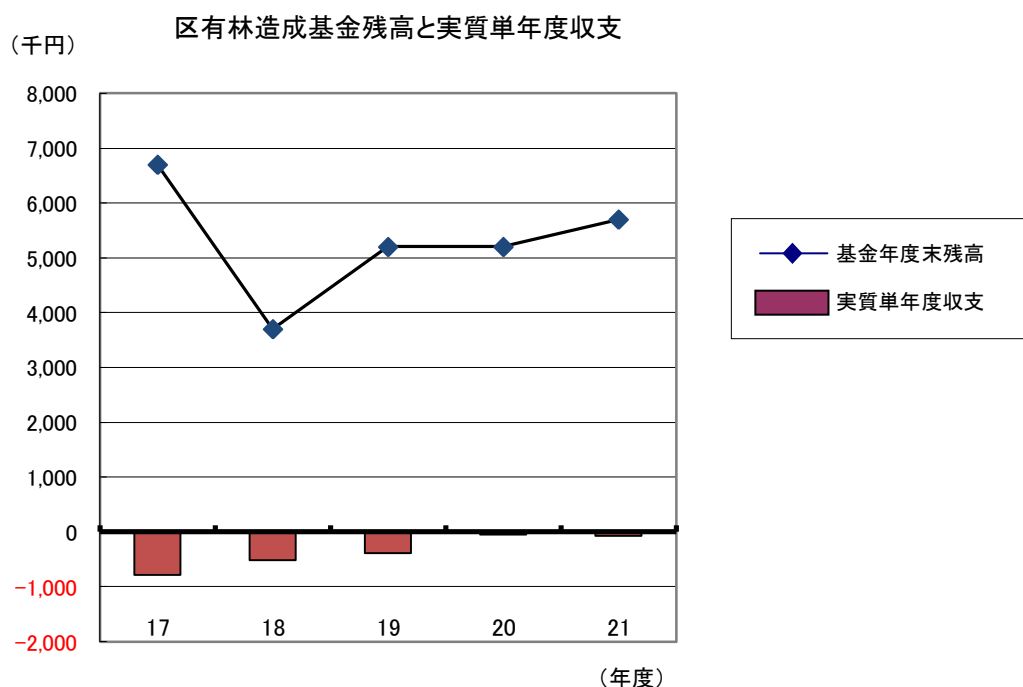
歳入の構成は、主に繰越金 85.2%となっており、また、歳出の構成は、主に積立

金 54.1%、交付金 15.3%、議員報酬 14.6%となっています。

区有林造成基金は、本年度 500 千円を積み立て、残高が 5,700 千円に増加していますが、引き続き配慮が必要と思われます。

今後も木材価格の上昇が期待し難い経済環境にあつて、経常的な収入が繰越金と区有林造成基金利子収入となることから、年度を追うごとに財源が縮小する厳しい財政構造となっています。

現実を直視し、徹底した支出削減に努めるとともに、現在の財産区の在り方を抜本的に検討する必要があると思われます。

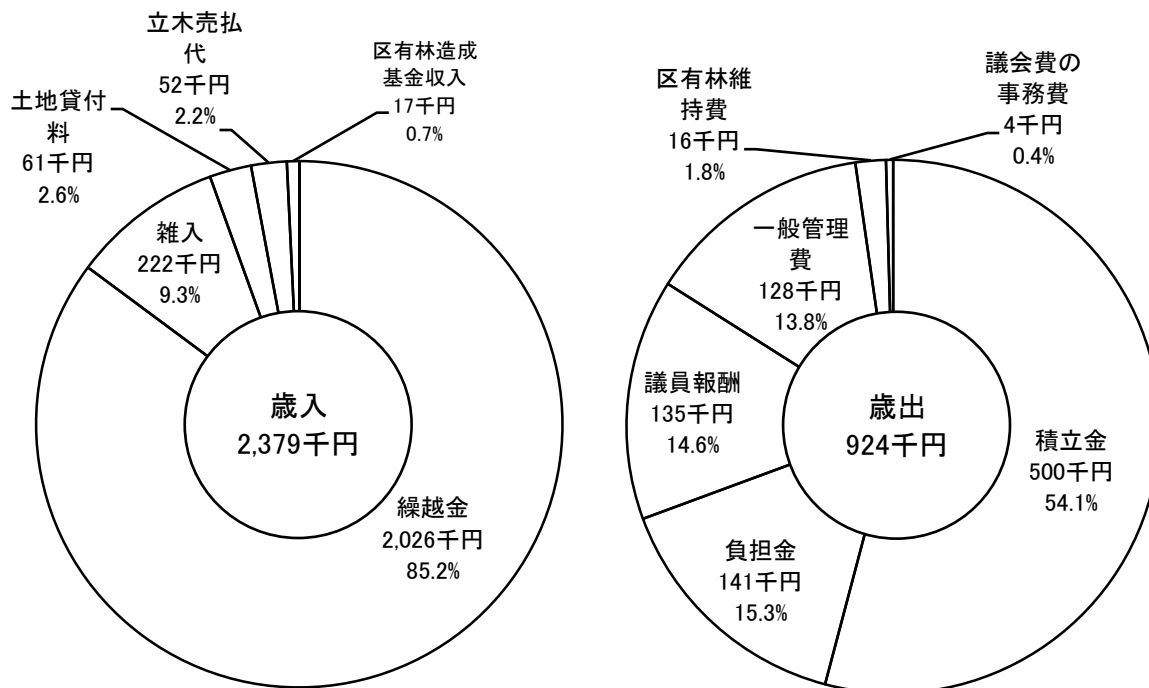


財産区は、地方自治法第294条等において、その所有する財産又は公の施設の管理及び処分が主たる目的で、財産の適正な維持管理を行うことにより、住民の福祉の増進に寄与するとともに、地区と市との一体性を損なわないように努めることが求められています。

また、地球環境の保全が求められ、森林が果たしている様々な機能が注目されています。郷土の貴重な緑を護るとともに、水源涵養という観点から、将来の展望を踏まえ、これに係る財源の確保と森林の育成に配慮されるよう希望します。

2 歳入、歳出

本年度の歳入歳出決算の構成比率は、次のとおりです。



(1) 歳入

(単位 千円・%・ポイント)

区分 年度	予算現額	調定額	収入済額	収入未済額	収入率	
					対予算	対調定
21	1,500	2,379	2,379	0	158.6	100.0
20	4,700	4,580	4,580	0	97.4	100.0
比較増減	△3,200	△2,201	△2,201	0	61.2	0.0

歳入決算額は2,379千円で、予算現額に比べて879千円(58.6%)の増、収入率が158.6%となり、前年度に比べて2,201千円(48.1%)増加しています。

これは、主に立木売払代が32千円(160.3%)増加したものの、雑入が1,962千円(89.8%)、不動産売払収入が220千円(皆減)減少したことによるものです。

収入の主なものは、雑入222千円(構成比9.3%)と繰越金2,026千円(構成比85.2%)です。

調定に対する収入率は100%でした。

なお、雑入の財産区共用自動車維持管理経費等負担金180千円の内訳が松田財産区60千円、葉鹿財産区60千円、小俣財産区60千円となっていますが、実

費相当にするなど、適正な処理が必要と思われます。

(2) 歳 出

(単位 千円・%・ポイント)

区分 年度	予算現額	支出済額	不用額	執行率
21	1,500	924	576	61.6
20	4,700	2,553	2,147	54.3
比較増減	△3,200	△1,629	△1,571	7.3

歳出決算額は924千円で、執行率が61.6%となり、前年度に比べて1,629千円(63.8%)減少しています。

これは、主に積立金が500千円(皆増)増加したものの、一般管理費の事務費が1,716千円(93.1%)、議会費の事務費が331千円(98.9%)減少したことによるものです。

支出の主なものは、積立金500千円(構成比54.1%)、交付金141千円(構成比15.3%)、議員報酬135千円(構成比14.6%)です。

なお、不用額は576千円(38.4%)で、その主なものは、予備費の235千円を除くと、財産管理費の委託料131千円、一般管理費の事務費の需用費112千円です。本年度の事務事業は、おおむね執行されているものと認められました。

支出の事務処理は、おおむね適正に行われていました。

3 財産の管理

土地は1,420,301㎡で本年度中の増減はなく、建物も139㎡で増減がなく、主要な物品についても、異動はありませんでした。

立木の推定蓄積量については、本年度中に所有270㎡、分収113㎡の成長があり、年度末現在高は所有26,988㎡、分収3,893㎡、計30,881㎡となっています。

区有林造成基金は、本年度中に500千円を積み立て、年度末現在高が5,700千円となっています。

財産の管理については、適正に行われていました。